

## オンライン診療におけるMMWINシステム活用について

令和2年4月10日 厚生労働省医政局医事課より「新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱い」についての事務連絡があり、初診患者へのオンライン診療が解禁されました。

(詳細は厚生労働省のHPをご確認ください。 <https://www.mhlw.go.jp/content/000620995.pdf>)

【初診からの電話や情報通信機器を用いた診療の実施について】抜粋

患者から電話等により診療等の求めを受けた場合において、診療等の求めを受けた医療機関の医師は、当該医師が電話や情報通信機器を用いた診療により診断や処方当該医師の責任の下で医学的に可能であると判断した範囲において、初診から電話や情報通信機器を用いた診療により診断や処方をして差し支えない。

診療の際、できる限り過去の診療録・診療情報提供書・地域医療情報連携ネットワーク、又は健康診断の結果等により当該患者の基礎疾患の情報を把握・確認した上で、診断や処方を行うこと。



MMWIN診療情報参照システムでは、患者の同意に基づき、外来受診情報・入院情報・処方情報・検査結果・画像データを閲覧することができますので、電話等でのオンライン診療の際に、ぜひご利用ください。



## ホームページのご案内

MMWINホームページでは、最新の参加施設や診療データバックアップ数、加入患者数をご確認いただけます。

またシステムのご紹介や各種お知らせ、過去の広報資料等を掲載しておりますので、是非ご覧ください。



発行：一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313

E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp



MMWIN

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。  
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。  
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2020 MMWIN



MMWIN® 通信  
みんなのみやぎネット® NEWS

2020  
6.26  
vol. 61

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会



福島県での  
MMWIN新規参加!!



新地クリニック

岩淵健太郎院長



新地クリニック外観

## 県境地域の相互医療情報の共有に向けて

この度、福島県の診療所様がMMWINに新規参加されました。県外の医療機関では初のMMWIN参加となりますのでご紹介させていただきます。

今回新たにMMWINに参加された「新地クリニック(岩淵健太郎院長)」は、1982年に旧相馬郡小高町において開設された小高赤坂病院が前身であり、地域に根差した医療を提供されておりましたが、東日本大震災による津波及び東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い甚大な被害をお受けになりました。

原子力発電所の事故がもたらした高度放射能汚染による避難指示の対象地域になり、同地での医療提供の再開が困難な状況になったため、2017年8月に福島県相馬郡新地町に「新地クリニック」として新しい診療所を設立されました。

地域的に宮城県南地域の病院・診療所に通院されている患者さんがいらっしゃいますので、宮城県内のMMWIN参加施設と診療情報の共有を図る目的でMMWINへ新規参加いただきました。

MMWINシステム導入後に宮城県内の病院・診療所の診療情報をご覧いただき、『患者の基本情報・処方データ・検査データ・画像データ等の閲覧が可能で、内容も当初の想像を越えていた。友人から「MMWINシステムは使ってみると良いシステムだよ」と聞いていたが、意味が解った。現在、別の地域の医療情報共有ネットワークにも参加しているがMMWINの方が数段優れていると感じる。宮城県内の病院・診療所等に通院している患者も多数おり、医療情報を共有する事で日常の診察に活かしていきたいと思う。また、福島県内在住の患者でもMMWINに加入する事が可能であることを知り、広く患者の加入勧誘を進めていきたい。』と高い評価をいただきました。

県境地域の患者の医療情報を多くの地域の医療機関で共有したいというニーズにお応えすることはMMWINの目指すことでもり、大変意義深いものだと感じております。

MMWIN事務局と致しましても、今回のケースのように宮城県内に留まらないネットワーク拡充に努めてまいります。

皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# iPad活用施設紹介

## 医療法人宏人会 木町病院



iPadでのMMWIN活用事例について、医療法人宏人会木町病院臨床工学部長 百足様よりお話を伺いました。

### 1、活用されている方の人数とiPad使用台数は？

看護師2名と臨床工学技士2名、台数は4台使用しています。

### 2、活用されている場面は？

入退院時の情報送信の確認と情報収集、JCHO仙台病院で行ったVascular Access-PTAの造影画像の確認をしています。



木町病院外観

### 3、MMWIN端末（ノートPC）とiPadの使い勝手の違いは？

MMWIN端末には透析支援システムのクライアント機能をインストールして使用していますがiPadではできないのが惜しい点です。



iPadで造影画像を確認

### 4、iPadでのMMWIN活用でよいと思われる点は？

ベッドサイドでのVascular Access-PTAの造影画像の確認にはコンパクトなところが良い点です。

### 5、iPadでのMMWIN活用での改善点は？

ログインの手順がIDとパスワードをすべて手入力する必要がある、カメラを使った認証などできるとよいのではないかと思います。

### 6、その他ご意見、ご要望がありましたらお教えください

JCHO仙台病院との取り決めで入退院時の連絡をMMWINを使用していますが、他の施設への拡充を行いたいと考えております。

画像連携で画像の印刷ができないので、スクリーンショットで印刷しています。印刷できるようにしてほしいと思います。

## 参加施設の声

気仙沼圏  
(気仙沼市本吉)

医療法人社団 湖聖会  
介護老人保健施設



はまなすの丘 相談支援部  
係長 熊谷 洋輔様

はまなすの丘様でのMMWIN活用について、ご紹介いただきました。

老人保健施設で入居相談を受けていると、必ずしもご家族様が本人の医療情報を知っているとは限らない事や、身寄りがなく遠い親類が相談に来る等、様々なケースがあります。

担当するケアマネジャーがいれば、力を借りて情報を把握することもできますが、入院に伴い介護保険新規申請された方は状況の把握が難しく、「分からないんだよね」と、ご相談者様も困り果ててしまうことがあります。そんな時「MMWINはご存じですか？」と、同様にしています。



はまなすの丘外観

最近はMMWIN事務局や医療機関の積極的な展開により、ポスターを見たことがあるという方が増えたと感じますが、詳細を知らない方が多く、詳しく説明を行うと申し込みを希望されます。

通常の入所相談では、面談の中で病歴や体調について本人含めご相談者様がどう受け止め、どうありがたいかを伺います。しかしながら、ご相談者様が詳しく知らない場合は、加入して頂く事を優先させ、私たち支援相談員が医療情報を把握してから、今後について相談させて頂くようにしています。



はまなすの丘スタッフの皆様

医療から介護への退院調整は年々迅速な対応が求められる中で、ヒューマンエラー等により、残念ながら必要な情報が確実に引き継がれるとは限りません。

ご利用されるご利用者様が安心して、治療から生活の場に移行できる体制を作るためにもMMWINでの情報共有は非常に有効と考えます。

老人保健施設の医療部門は、経過や今後の予測を施設サービス計画作成のアセスメントとして把握したいと考えます。その際、これまでの検査データや治療の経過を確認できることは、退院後の受け入れからQOLを高め、在宅復帰に繋げる早期のアプローチが可能になると期待されます。

COVID-19の流行で、介護施設は現行の受け入れ体制から劇的な変化が求められる事が推測されます。その中でもご利用者様の情報を確実に繋いでいく仕組みとして、今後も活用が期待されると認識しています。